

5-3 本荘都市計画区域

本市の中核都市機能を担う本荘都市計画区域を5つの地区に区分し、地区別の検討を行います。

(1) 本荘市街地中部地区

1) 地区の現況と課題

①現況

1. 概況

- ・ JR羽後本荘駅の西側に位置し、市役所や多くの官公庁が立地する本市の玄関であり顔となる地区です。駅前通りを中心に商業系の用途地域が定められ、その周囲に住居系の用途地域が定められています。

2. 面積

- ・ 地区の可住地面積は170.1haで、そのうち住居系の用途地域が約54%、商業系が約38%、工業系が約8%となっています。他の地区と比べると商業系用途地域の割合が多いのが本地区の特徴です。

3. 地区内人口・人口密度

- ・ 平成17年の地区内人口は9,173人で、そのうち住居系の用途地域に約54%、商業系に約36%、工業系に約9%の人が居住しており、用途地域別の面積割合とほぼ一致しています。
- ・ 平成12年から17年にかけて、人口は9,749人から9,173人へと576人(-6.0%)の減少となっています。
- ・ 平成17年の地区内人口密度は53.9人/haで、他の地区と比べ高い密度となっています。用途地域別に見ると、住居系が54.2人/ha、商業系が51.9人/ha、工業系が58.6人/haであり、大きな差異は見られません。

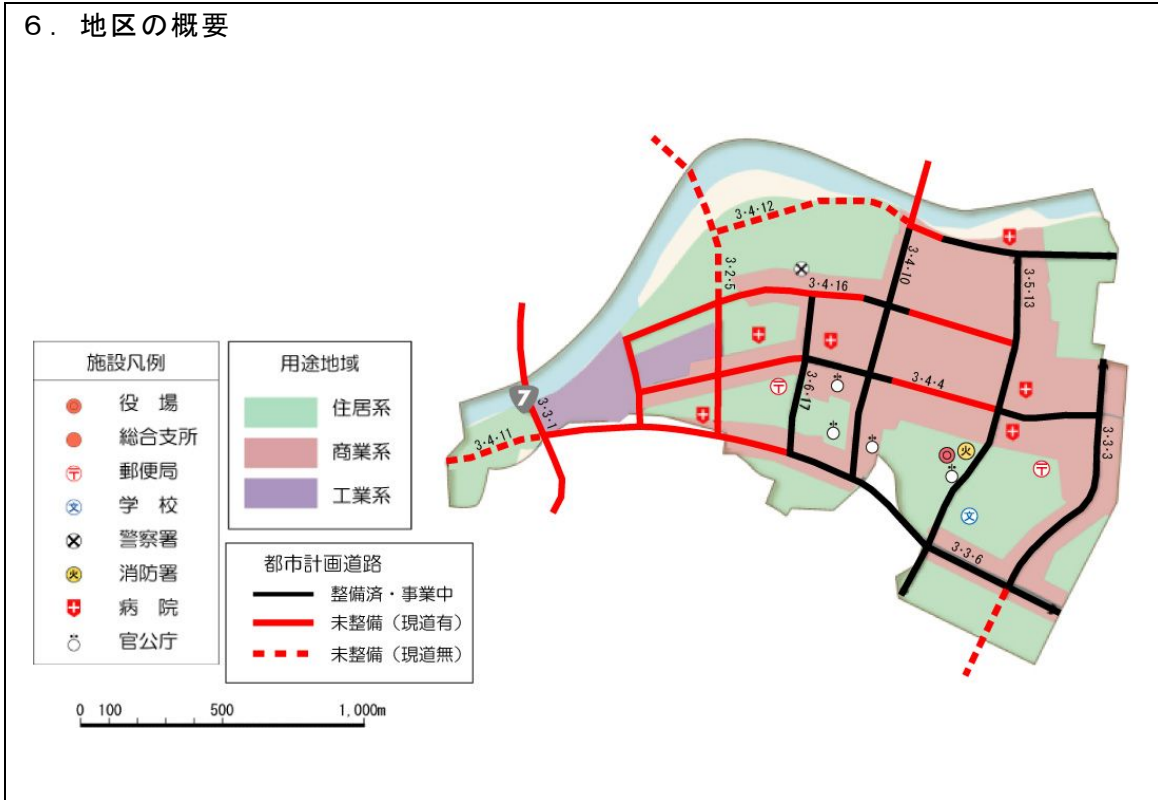
4. 市街化の動向

- ・ 過去5ヶ年(平成13~17)の新築建物の状況を下表に示します。新築建物数は地区全体で214件であり、北部地区、梵天地区に次ぐ3番目となっています。

地区全体	214 件	—
住宅	148 件	69.2 %
商業	24 件	11.2 %
工業	18 件	8.4 %
平均建ぺい率	17.2 %	—
平均容積率	27.0 %	—

5. 地域資源

- ・ 本地区と南部地区にまたがり本荘公園があり、米まつり、本荘さくらまつり、本荘つつじまつり等のイベントが行われます。また、本荘川まつり花火大会や菖蒲カーニバル等も行われています。
- ・ 秋田県指定有形文化財(建造物)として永泉寺山門が、秋田県指定無形民俗文化財として日役町獅子踊が指定されています。



②地区の整備課題

1. 都市構造

- ・ J R 羽後本荘駅及び駅周辺の拠点機能を強化し、本市の玄関・顔として魅力ある都市空間を整備する必要があります。
- ・ 古くから旧本荘市の中心市街地として商店街等の商業集積がありますが、近年は郊外の幹線道路沿線への大型店や量販店などの車利用型施設の進出などにより、非常に厳しい経営環境にあります。中心市街地の活性化、郊外型店舗との適正な役割分担や誘導策などにより、魅力ある商業拠点としての再生・強化を図る必要があります。
- ・ 自動車依存型の都市構造・郊外へ都市機能が分散する都市構造からの脱却を図るため活力ある中心市街地の再生を積極的に推進することが必要です。

2. 交通体系

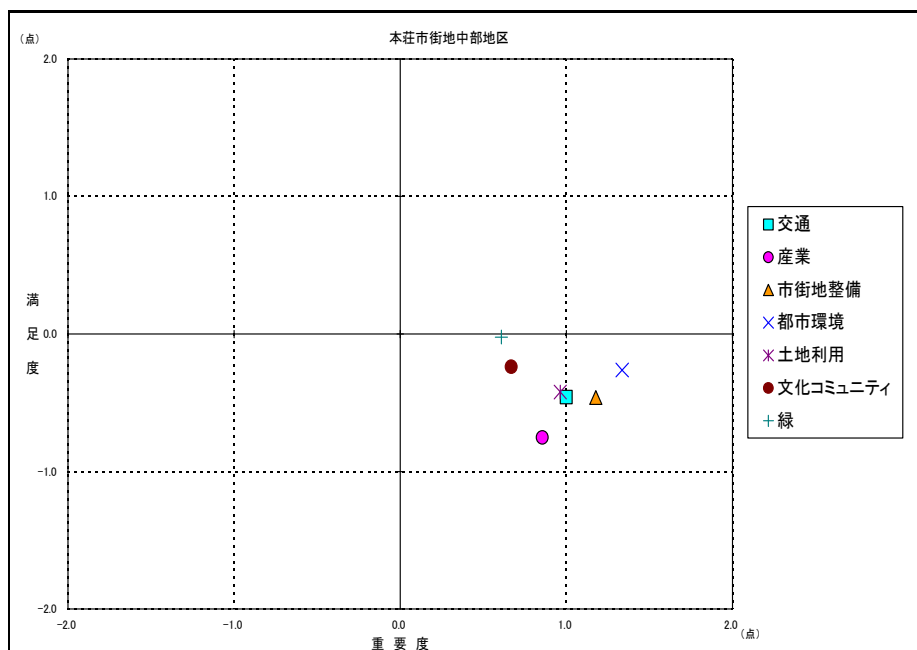
- ・ 本地区は、都市計画道路が高い密度で計画されていますが、実際の改良率が低いため、効率的な道路ネットワークが形成されていない状況にあります。このため、整備の優先順位の検討と計画的な改良の推進を図る必要があります。
- ・ 都市計画道路の未改良などにより歩行空間が不足しており、ゆとりある魅力的な歩行空間の整備を図る必要があります。
- ・ 今後、高齢化社会の更なる進展が予測される中、公共交通の利便性の向上が望まれており、官公庁や公共公益施設、病院などを結ぶ循環バスのネットワーク整備などの検討が求められます。

市民の声：本荘市街地中部地区

～市民意向調査より～

- 全体として、緑に関する項目以外は全て満足度が低く、その中でも、「都市環境」「市街地整備」は重要度が高いという意向が示されています。
- 個別の分野・施策別に特に満足度が低く、かつ重要度が高い項目として、以下のものが示されています。
 - ・交通分野
 - 鉄道駅舎の利便性向上、幹線道路の整備、除雪等の冬期間交通の確保
 - ・産業分野
 - 商店街の活性化
 - ・市街地整備分野
 - 親水・レクリエーション拠点の整備、商業拠点の形成、公共施設のバリアフリー化、歩道等のバリアフリー化
 - ・都市環境分野
 - ガードレール・道路照明等の交通安全施設の整備、ごみ不法投棄対策、歩道・通学路の安全性の確保
 - ・土地利用分野
 - 新規企業の誘致

由利本荘市の将来のまちづくりに関するアンケート
市民アンケート問6(地区番号1 本荘市街地中部地区) 分散図【総括】



※満足度 満足している:2点 やや満足している:1点 どちらとも言えない:0点 やや不満である:-1点 不満である:-2点として計上
※重要度 重要である:2点 やや重要である:1点 どちらとも言えない:0点 あまり重要ではない:-1点 重要でない:-2点として計上

2) 地区の目標とテーマ

①本荘市街地中部地区の目標

本市および県南西部の核都市としての玄関・顔である本地区は、広域における交流・情報拠点として求心力の高い魅力ある都市空間の形成をめざします。

駅周辺を中心とするコンパクトで拠点性の高い都市整備を図り、人々が集い交流し、歩いて楽しい都市空間の創出を図ります。

②テーマ

本荘市街地中部地区のテーマを以下のように設定します。

本市の「玄関」・「顔」としての魅力ある都市空間の創出

3) 地区の整備方針と重点目標

①地区の整備方針

本荘市街地中部地区は、以下の3つのゾーンで構成します。

●中心市街地ゾーン

- ・商業系の用途地域に指定されているJR羽後本荘駅前を中心とする中心市街地は、本市の玄関口および県南西の核都市にふさわしい情報・交流機能および商業・業務・サービス機能等の高度な集積の促進を図ります。

●住宅市街地ゾーン

- ・桜小路、八幡下、後町などの住居系の用途地域においては良好な住宅地の環境保全に努めます。

●子吉川ふれあいゾーン

- ・本市の代表的な水と緑の軸線である子吉川の河川敷は、都市における自然とのふれあいの場、やすらぎの場であるとともに、貴重なオープンスペース・防災空間としての機能も併せ持っており、水や川に関する情報・学習・交流の場として平成8年にオープンした複合施設ボートプラザ・アクアパルの有効活用とともに、今後も引き続き河川緑地等の整備に努めます。

②地区整備の重点目標

●広域の玄関としての交通拠点整備

- ・ J R 羽後本荘駅および駅前広場等の周辺施設の再整備により、本市及び広域の玄関としての交通拠点の形成を図ります。鉄道をはじめとして循環バス、路線バス、タクシー、自家用車、自転車など多様な交通の結節機能を高め、利便性が高く、にぎわいのある駅前空間の形成を図ります。
- ・ 駅周辺の整備にあたっては、市民からの要望の高い「鉄道駅舎の利便性向上」や「バリアフリー化」を図るとともに、本市の「顔」として質の高い景観を有する交通拠点の形成に努めます。

●にぎわい交流拠点の整備と商業の振興

- ・ 中心市街地の活性化および駅周辺の拠点性を高めるため、にぎわい交流拠点の整備を図ります。あわせて、厳しい経営環境に置かれている地区の商店街や既存店の活性化推進の核施設として、情報・交流・商業・レクリエーション・生涯学習などの機能を併せ持つ複合的でアメニティーの高い拠点の形成を図ります。

●計画的な道路ネットワークの整備

- ・ 市民意向調査からも幹線道路の整備について満足度が低く、かつ重要度が高い意向が示されているとおり、本地区の都市計画道路は計画密度は高いものの改良率が低いため、効率的な道路ネットワークが形成されておらず、歩行空間や交通安全施設の不足などの問題も抱えています。限られた財源で効果的な整備を行うため、整備の優先順位を検討し、計画的な道路網整備を推進します。

●定住環境の整備

- ・ 市民意向調査から本地区の「都市環境」「市街地整備」について満足度は低いですが、重要度は高いという結果が得られています。既成市街地においては道路や市街地整備事業などの実現に困難を伴う一方、自動車の増大に伴う交通安全施設の不足や歩道・通学路の安全性確保およびごみ不法投棄などの都市問題が顕在化してきていることが主な要因と考えられます。
- ・ 住みたいまち、住みたいまちであるために、住民主体のまちづくりを促進し、良好な住環境と街並みの保全に努めます。

これら地区整備の目標の実現を図るため、総合発展計画の実施計画事業の内容をを踏まえ、次の事業を行う方針です。

番号	事業名	事業の緊急性
①	まちづくり交付金事業(本荘市街地地区) (地域交流施設整備、地域案内板整備)	高い
②	本荘公園整備事業	普通
③	本荘中央地区土地区画整理事業(主体事業)	高い
④	〃 (電線類地中化事業)	高い
⑤	大町銀座通線整備事業 (まちづくり交付金(本荘市街地地区))	高い
⑥	市道由利橋通線 由利橋架替事業	高い
⑦	市道表尾崎町線整備事業 (まちづくり交付金(本荘市街地地区))	高い
⑧	市道由利中央線 歩道設置	普通
⑨	(都)停車場栄町線 (本荘中央土地区画整理事業区域 ~(都)由利中央線 L=0.4 km)	高い
⑩	国道107号 本荘道路 (由利本荘市瓦谷地~上大野 約2.0 km)	普通

その他に、全市的な計画事業として、以下のプロジェクトがあります。

- 観光案内板整備事業
- 可燃・不燃ごみ処理施設建設事業
- 防災センター・由利本荘市消防庁舎建設事業

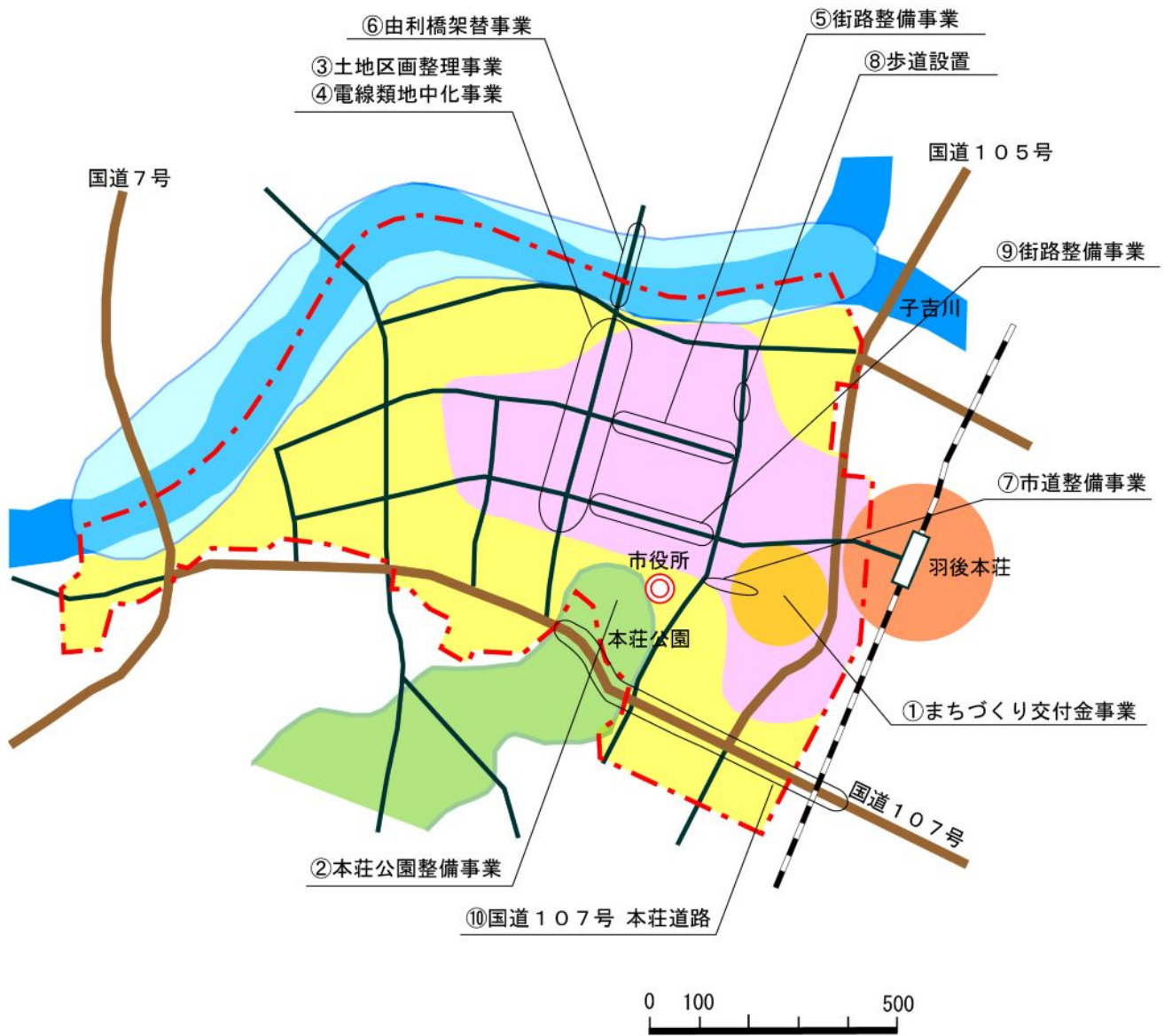
また、本荘地域全体の計画事業として、

- 本荘地区公共下水道事業(本荘処理区) があげられます。

3) 整備構想図

本荘市街地中部地区の整備構想図を以下に示します。

■本荘市街地中部地区 整備構想図



－ 凡例 －

	地区境界		中心市街地ゾーン		公園・緑地ゾーン
	交通拠点		住宅市街地ゾーン		主要幹線道路
	にぎわい交流拠点		子吉川ふれあいゾーン		幹線道路

(2) 本荘市街地梵天地区

1) 地区の現況と課題

①現況

1. 概況

- ・ JR羽後本荘駅の東側に位置するが、駅前広場や東西自由通路などは整備されていないため、駅から直接本地区にアクセスすることはできない状況です。基本的に住居系の用途地域と子吉川左岸沿いの農業的土地利用からなる地区ですが、国道 105 号沿道にはロードサイド型の大型店、量販店の進出が目立ち、住居専用地域では新興住宅地開発が進むなど、比較的開発圧力の高い地区と言えます。

2. 面積

- ・ 地区の可住地面積は 117.6ha で、そのうち住居系の用途地域が約 82%、商業系が約 8%、工業系が約 10%となっています。基本的には住居系用途地域であるのが本地区の特徴です。

3. 地区内人口・人口密度

- ・ 平成 17 年の地区内人口は 6,390 人で、そのうち住居系の用途地域に約 77%、商業系に約 10%、工業系に約 12%の人が居住しており、用途地域別の面積割合とほぼ一致しています。
- ・ 平成 12 から 17 年にかけて、人口は 5,719 人から 6,390 人へと 671 人 (+11.7%) も増加しています。
- ・ 平成 17 年の地区内人口密度は 54.3 人/ha で、本荘市街地中部地区と同水準であり、他の地区と比べると高い密度となっています。用途地域別に見ると、住居系が 51.3 人/ha、商業系が 67.7 人/ha、工業系(幹線道路沿道の準工業地域)が 68.8 人/ha であり、商業系・工業系用途地域内の方が住居系よりも高い密度となっています。

4. 市街化の動向

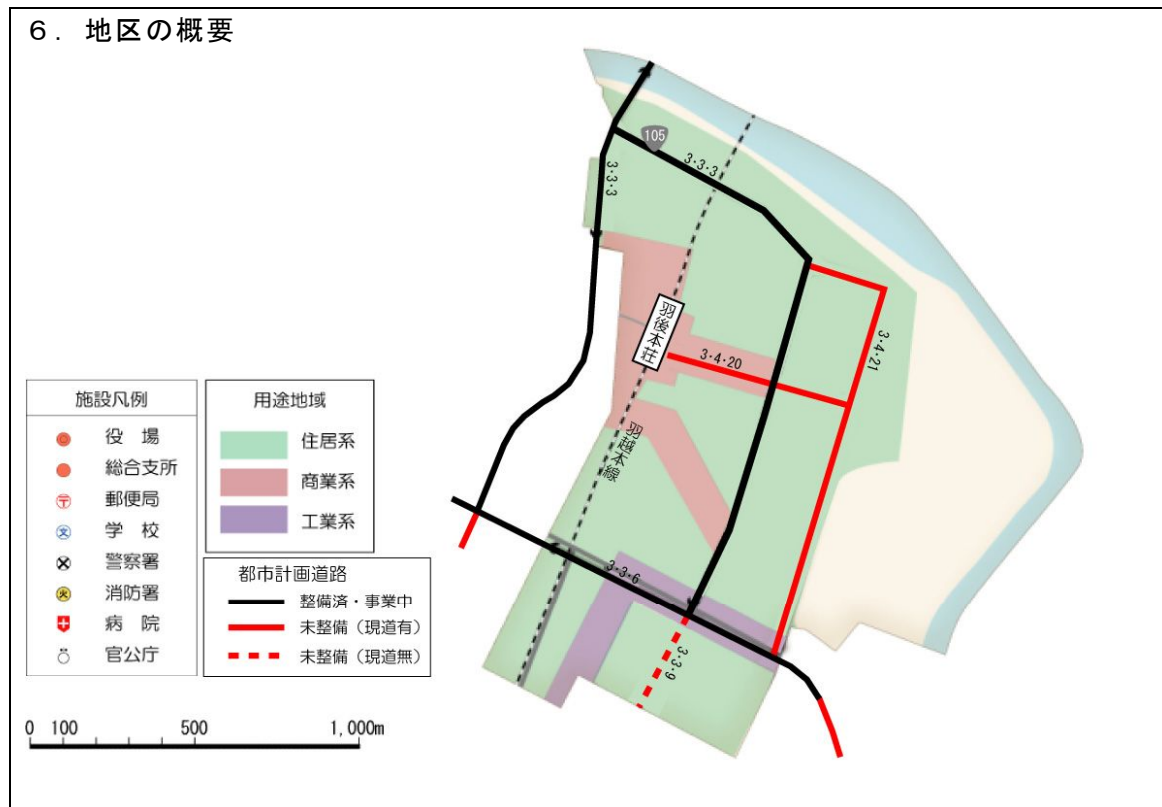
- ・ 過去 5 ヶ年(平成 13~17)の新築建物の状況を下表に示します。新築建物数は地区全体で 260 件で、8 つの地区のうち北部地区に次いで 2 番目となっています。
- ・ 新築建物の 9 割近くが住宅であり、主に新興住宅地開発による戸建住宅ですが、駅周辺部などでは民間アパートの立地も多く見られます。

地区全体	214 件	—
住宅	227 件	87.3 %
商業	6 件	2.3 %
工業	16 件	6.2 %
平均建ぺい率	31.0 %	—
平均容積率	48.5 %	—

5. 地域資源

- ・ 特筆すべきものはありません。

6. 地区の概要



②地区の整備課題

1. 都市構造

- ・ JR羽後本荘駅及び駅周辺の拠点機能の強化を図るため、東口駅前広場および東西自由通路を整備する必要があります。また、駅前広場へのアクセス道路として都市計画道路 3.4.20 停車場東口線の整備が課題となります。
- ・ 国道 105 号沿道には車利用型の大型店や量販店などが多く立地し、地区および周辺市民の利便性に寄与しています。中部地区の商店街や既存店との役割分担を図るとともに、幹線道路沿道への立地に対し適切な規制誘導を行い、質の高い沿道景観の形成を図る必要があります。
- ・ 平成 12～17 年で 11.7%増という急激な人口増加に対応した都市基盤整備、市街地整備が求められています。
- ・ 本地区は国道 105 号、107 号、108 号がとおり、将来的には東口駅前広場、自由通路、駅へのアクセス道路整備により駅直近地区となるなど利便性が高い地区です。低未利用地が残されていることもあり、開発圧力が高く、人口増加が著しいため、計画的な開発整備を進める必要があります。

2. 土地利用

- ・ 住居専用地域では新興住宅地の開発が進んでおり（一番堰付近など）、ひきつづき良質な住空間整備を推進する必要があります。

市民の声：本荘市街地梵天地区

～市民意向調査より～

- 全体として、緑に関する項目以外は全て満足度が低く、その中でも、「交通」「市街地整備」「都市環境」は重要度が高いという意向が示されています。
- 個別の分野・施策別に特に満足度が低く、かつ重要度が高い項目として、以下のものが示されています。

- ・交通分野

幹線道路の整備、鉄道駅舎の利便性向上、除雪等の冬期間交通の確保

- ・産業分野

商店街の活性化

- ・市街地整備分野

歩道等のバリアフリー化、商業拠点の形成

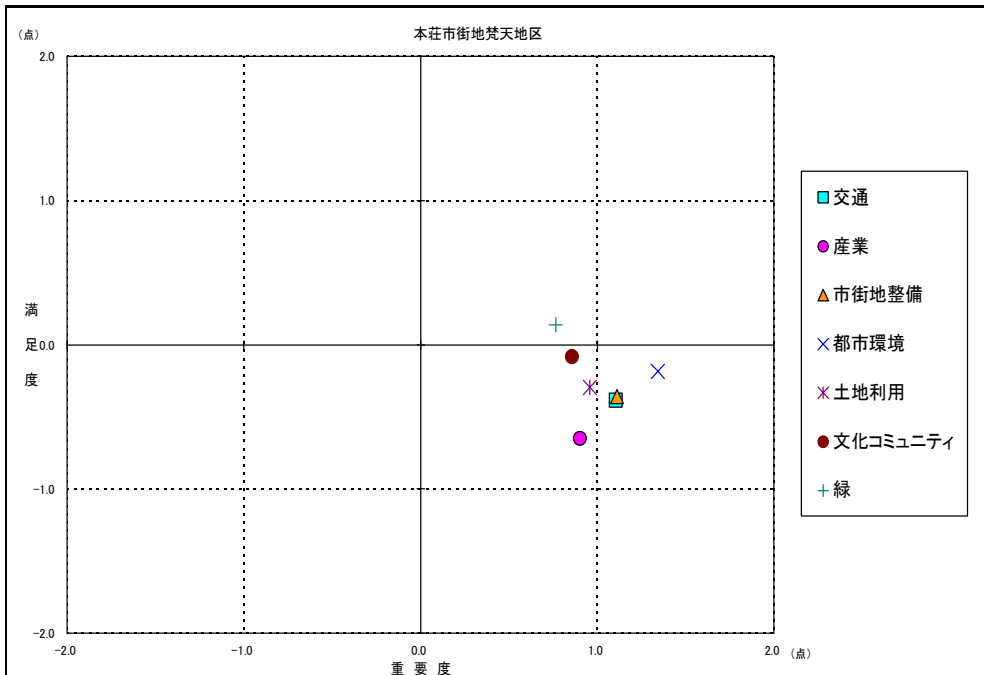
- ・都市環境分野

歩道・通学路の安全性の確保、ガードレール・道路照明等の交通安全施設の整備、ごみ不法投棄対策

- ・土地利用分野

新規企業の誘致

由利本荘市の将来のまちづくりに関するアンケート
市民アンケート問6(地区番号2 本荘市街地梵天地区) 分散図【総括】



※満足度 満足している:2点 やや満足している:1点 どちらとも言えない:0点 やや不満である:-1点 不満である:-2点として計上
※重要度 重要である:2点 やや重要である:1点 どちらとも言えない:0点 あまり重要ではない:-1点 重要でない:-2点として計上

2) 地区の目標とテーマ

①本荘市街地梵天地区の目標

J R羽後本荘駅の東側に位置する本地区は交通利便性の向上や、市街化の進展が見込まれ、人口も増加している活力のある地区です。駅東口の整備の必要性も向上しており、今後も計画的な開発整備により質の高い居住環境の形成を図ります。

本地区は、質の高い住宅地としての整備を基本としますが、国道沿いには車利用型の大型店などの進出も多いため、中部地区の商店街や既存店との役割分担を検討し、適切な規制・誘導を図ることにより、良質な住宅市街地にふさわしい沿道景観を有する街並み形成を推進します。

②テーマ

本荘市街地梵天地区のテーマを以下のように設定します。

質の高い居住環境を有する活力あるまちの創出

3) 地区の整備方針と整備構想

①地区の整備方針

本荘市街地梵天地区は、以下の4つのゾーンで構成します。

●駅周辺市街地ゾーン

- ・将来整備される方針である東口駅前広場周辺および都市計画道路 3.4.20 停車場東口線の沿道は、商業系の用途地域に指定されているが、地区周辺の住民へのサービスを中心とするコンパクトな整備を図ります。駅への近接性や道路交通条件の良さを活かした利便性の高い住宅地整備および都市型居住の促進を図ります。

●住宅市街地ゾーン

- ・一番堰、二番堰、西梵天などのなどの住居専用地域においては良好な住宅地の環境保全に努めます。

●幹線道路沿道ゾーン

- ・幹線道路沿道の土地利用は、有効活用とともに都市全体としての望ましい将来都市像実現に向けた視点からの検討も行い、適正な立地誘導を図るとともに質の高い沿道景観の形成に努めます。

●農業保全ゾーン

- ・子吉川左岸に広がる梵天谷地、瀬越場、出戸上野などの良好な農業ゾーンは、今後も営農環境の維持・保全を図ります。

②地区整備の重点目標

●東口駅前広場および東西自由通路の整備

- ・地区の利便性の向上およびＪＲ羽越本線西側の中部地区や南部地区との連携強化を図るため、東口駅前広場および東西自由通路の整備を図ります。駅舎の改築や駅へのアクセス道路である都市計画道路 3.4.20 停車場東口線との一体的整備が望ましいため、調整を図りながら早期の実現をめざします。
- ・駅東口周辺の整備にあたっては、市民から要望の高い「鉄道駅舎の利便性向上」や「バリアフリー化」に配慮した整備を図ります。

●計画的な開発整備の推進

- ・開発圧力が強く、平成 12～17 年で 11.7%増という急激な人口増加を示している本地区では、無秩序な市街化の進行を防止し、質の高い居住環境と景観を創出・維持するため今後も計画的な開発整備を推進するよう指導・誘導に努めます。

●道路ネットワークの整備

- ・市民意向調査からも幹線道路の整備について満足度が低く、かつ重要度が高い意向が示されています。本地区には、4車線の都市計画道路が3つ計画されていますが、未改良区間が多く効率的な道路ネットワークが形成されていません。
- ・日本海沿岸東北自動車道・本荘ＩＣの供用開始に伴う交通量の変化等も調査した上で、本地区と他の地域拠点を結ぶ動脈である幹線道路の整備推進を図ります。整備にあたっては、住民意向調査で示された「歩道等のバリアフリー化」「歩道・通学路での安全性の確保」「ガードレール・道路照明等の交通安全施設の整備」に十分配慮し行うものとしします。

●良好な住環境や街並みの保全

- ・住宅地については住民主体のまちづくりを促進し、良好な住環境と街並みの保全に努めます。また、住宅開発が進む新興住宅地では、地区計画等の活用により良質な住宅地の形成をめざします。

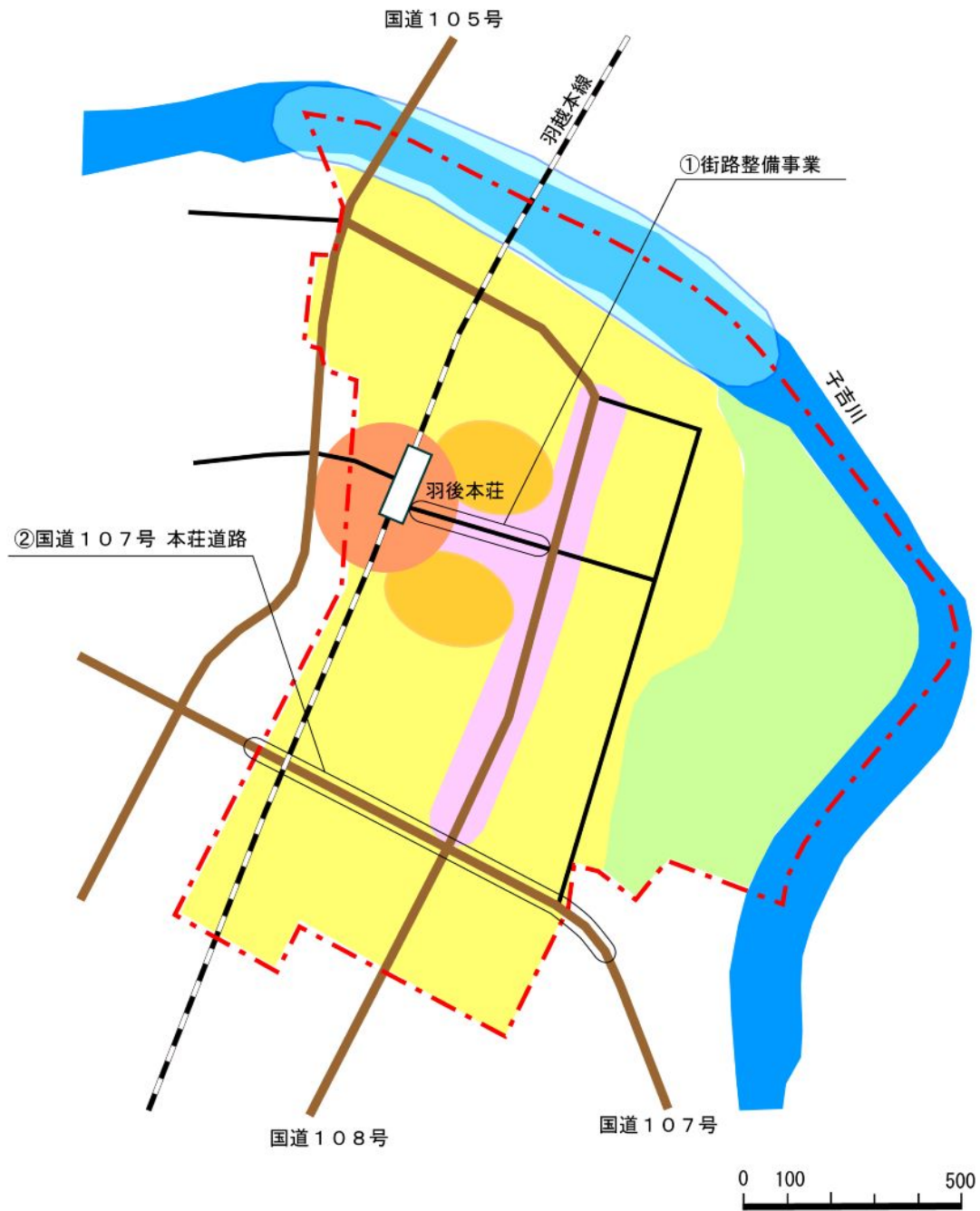
これら地区整備の目標の実現を図るため、総合発展計画の実施計画事業の内容をを踏まえ、次の事業を行う方針です。

番号	事業名	事業の緊急性
①	(都)停車場東口線 (ＪＲ羽後本荘駅東口～国道 105 号 約 0.3 km)	普通
②	国道 107 号 本荘道路 (由利本荘市瓦谷地～上大野 約 2.0 km)	普通

4) 整備構想

本荘市街地梵天地区の整備構想図を以下に示します。

■本荘市街地梵天地区 整備構想図



— 凡例 —

地区境界	住宅市街地ゾーン	農地保全ゾーン
交通拠点	沿道活用ゾーン	主要幹線道路
駅周辺市街地ゾーン	子吉川ふれあいゾーン	幹線道路

(3) 本荘市街地南部地区

1) 地区の現況と課題

①現況

1. 概況

- 概ね国道 107 号の南側を占める本地区は、都市的土地利用の他、農地や国有林など多様な土地利用がなされています。用途地域は地区の東側を中心に指定されており、その大部分は住居系となっています。地区南西部は丘陵地で、国有林や大堤・中堤などの池があり豊かな自然が残され、一部は本荘由利総合運動公園や本荘由利総合福祉エリアとして整備が進められています。

2. 面積

- 地区の可住地面積は 186.5ha で、そのうち住居系の用途地域が約 81%、商業系が 0.3%、工業系が約 18%となっています。工業系も幹線道路沿いに準工業地域が指定されている状況であり、用途地域全体としては住居系が大半で商業系がほとんどないのが本地区の特徴です。

3. 地区内人口・人口密度

- 平成 17 年の地区内人口は 5,710 人で、そのうち住居系の用途地域に約 85%、商業系に 0.1%、工業系に約 14%の人が居住しており、用途地域別の面積割合とほぼ一致しています。
- 平成 12 から 17 年にかけて、人口は 5,690 人から 5,710 人へと 20 人 (+0.0%) の微増ですが、実質的には人口増減のない状況と言えます。
- 平成 17 年の地区内人口密度は 30.6 人/ha で、本荘市街地中部地区や梵天地区の水準と比べると低く、用途地域別に見ると、住居系が 32.4 人/ha、商業系が 6.4 人/ha、工業系が 25.5 人/ha となっています。

4. 市街化の動向

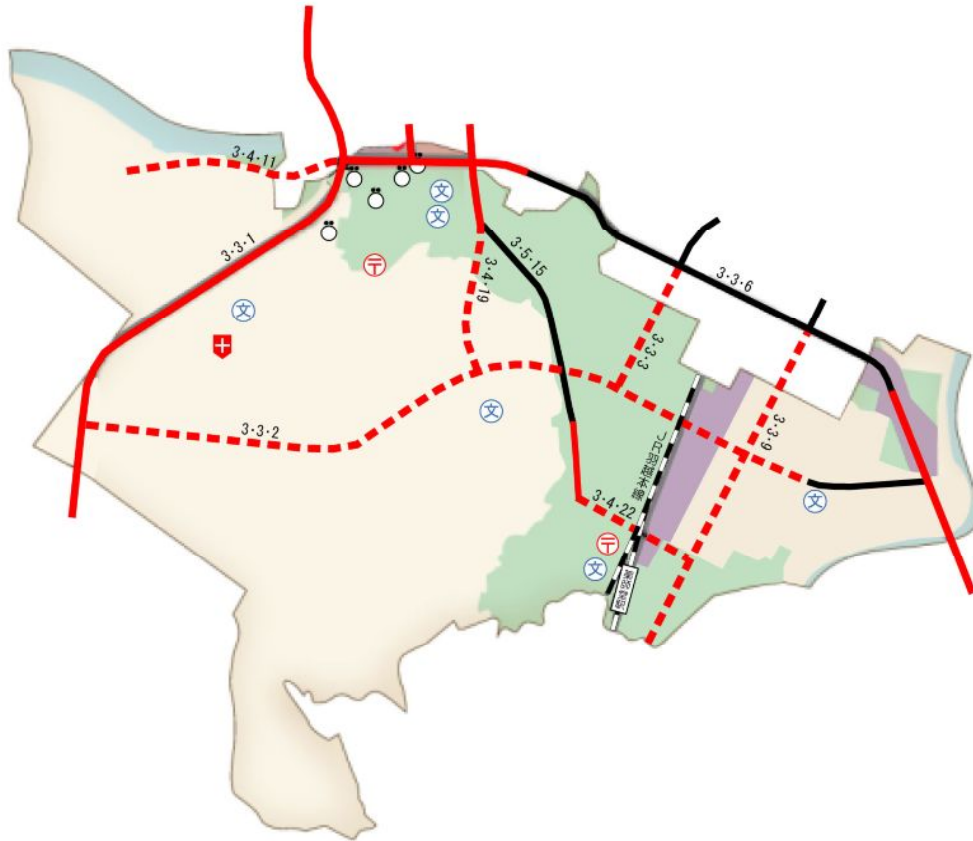
- 過去 5 ヶ年(平成 13~17)の新築建物の状況を下表に示します。新築建物数は地区全体で 125 件あり、新築建物の約 86%が住宅です。

地区全体	125 件	—
住宅	108 件	86.4 %
商業	3 件	2.4 %
工業	8 件	6.4 %
平均建ぺい率	17.4 %	—
平均容積率	29.2 %	—

5. 地域資源

- 本地区と中部地区にまたがり本荘公園があり、米まつり、本荘さくらまつり、本荘つつじまつり等のイベントが行われます。
- 丘陵地には本荘由利総合運動公園があり、現在も整備が進められています。
- 本荘公園内の御手作堤の近くに鶴舞温泉があります。
- 秋田県指定有形文化財(工芸品)として「扇面図脇差拵揃金具」があります。

6. 地区の概要



施設凡例		用途地域	
●	役場	■	住居系
●	総合支所	■	商業系
〒	郵便局	■	工業系
⊗	学校		
⊗	警察署		
⊗	消防署		
+	病院		
○	官公庁		
都市計画道路			
—		整備済・事業中	
—		未整備（現道有）	
- - -		未整備（現道無）	



②地区の整備課題

1. 都市構造

- ・日本海沿岸東北自動車道・本荘 I C 開通に伴う交通の変化への対応が課題となります。本荘 I C へのアクセス道路である国道 107 号が本地区の市街地を横断して国道 7 号につながるため、増加が予想される交通量に対し適切な交通誘導や施設整備が必要です。
- ・本荘公園、本荘由利総合運動公園、蟻山風致地区の自然環境、鶴舞温泉などの恵まれた地域資源を活かしたまちづくりの推進が求められています。

2. 土地利用

- ・用途地域が指定されている区域外での開発が進行しており、適切なコントロールが必要です。J R 羽越本線東側で梵天地区の南側に位置する本荘東中学校や薬師堂周辺は用途地域外ですが、梵天地区の高い開発圧力の影響を受け小規模開発が進行しており、良質な居住環境の保全・維持のためにも適切な規制・誘導などの検討が必要です。
- ・住居系用途地域内の低密度化への対応が課題としてあげられます。過去 5 ケ年（平成 13～17）の新築建物の平均建ぺい率が 17.4%、平均容積率が 29.2%と低密度であり、都市としての魅力やにぎわい・一体性を確保する視点から適正な密度の住宅市街地への誘導や住環境づくりが求められます。
- ・国道 108 号沿いに指定された準工業地域では、沿道利用型の商業施設の立地による用途の混在が進んでいるため、幹線道路沿道への立地に対し適切な規制誘導を行い、居住環境の保全と質の高い沿道景観の形成を図る必要があります。
- ・道路ネットワークの改良を図るため、現在の国道 108 号の代替ルートとして、都市計画道路 3.3.9(25)が計画されていますが、この道路が現在の国道に接続するのは本荘市街地南部地区の地区外南側 400～500mの地点となっています。この道路の整備に際しては、主要幹線道路沿道等の無秩序な開発を防止し、計画的な土地利用を図るため、用途地域指定などの検討を行う必要があります。

市民の声：本荘市街地南部地区

～市民意向調査より～

- 全体として、全ての項目に対して満足度が低く、その中でも特に重要度が高いのは「交通」「市街地整備」「都市環境」「土地利用」であるという意向が示されています。
- 個別の分野・施策別に特に満足度が低く、かつ重要度が高い項目として、以下のものが示されています。

・交通分野

鉄道駅舎の利便性向上、幹線道路の整備、除雪等の冬期間交通の確保、交通渋滞緩和と交通の円滑化

・産業分野

商店街の活性化

・市街地整備分野

歩道等のバリアフリー化、商業拠点の形成

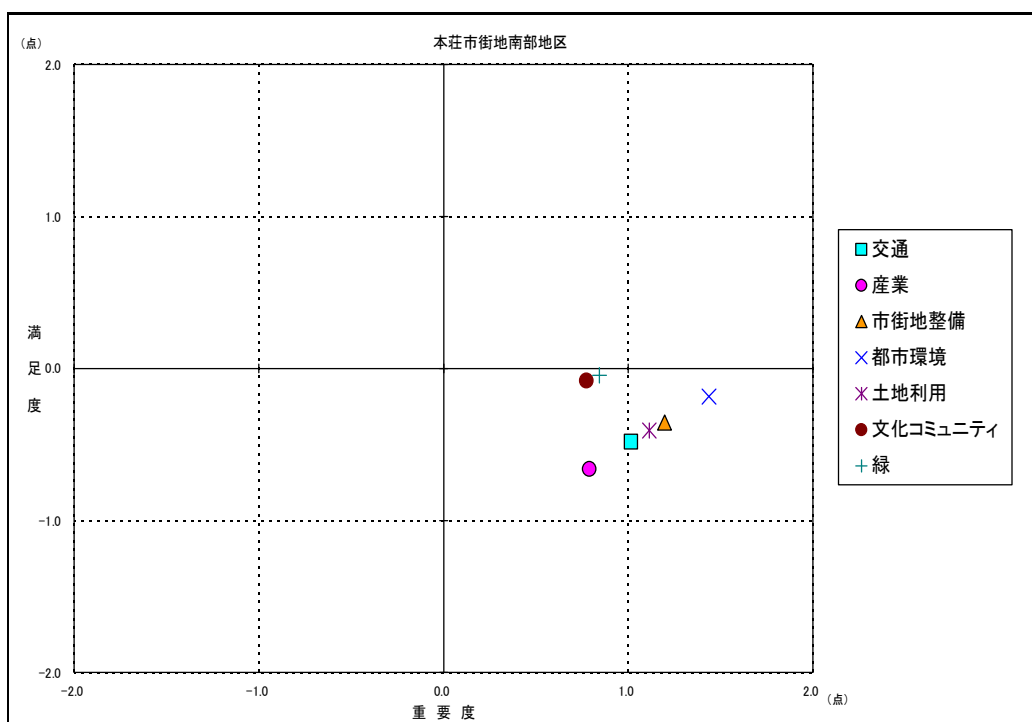
・都市環境分野

歩道・通学路の安全性の確保、ガードレール・道路照明等の交通安全施設の整備、ごみ不法投棄対策

・土地利用分野

新規企業の誘致

由利本荘市の将来のまちづくりに関するアンケート
市民アンケート問6(地区番号3 本荘市街地南部地区) 分散図【総括】



※満足度 満足している:2点 やや満足している:1点 どちらとも言えない:0点 やや不満である:-1点 不満である:-2点として計上
※重要度 重要である:2点 やや重要である:1点 どちらとも言えない:0点 あまり重要ではない:-1点 重要でない:-2点として計上

2) 地区の目標とテーマ

①本荘市街地南部地区の目標

本地区は、現在比較的低密度な住宅地が形成されており、今後もゆとりある住宅市街地を基本としますが、都市として適度な密度の住宅市街地への誘導や居住環境づくりに努めます。

また、本荘 I C 供用開始に伴う交通量増大の影響を受ける地区であるため、今後の交通量の推移や予測を踏まえて適切な整備により円滑な交通処理を図ります。

地区の南西部は、丘陵地となっており、林や池などの豊かな自然が残されています。今後も引き続き本荘由利総合運動公園や総合福祉エリアの整備を継続し、計画的な開発整備により自然資源の保全と活用を図ります。

②テーマ

本荘市街地南部地区のテーマを以下のように設定します。

緑と福祉・ゆとりとやすらぎのまちづくり

3) 地区の整備方針と整備構想

①地域の整備方針

本荘市街地南部地区は、以下の3つのゾーンで構成します。

●既成住宅市街地ゾーン

- ・ J R 羽越本線西側の小人町・大楯町などの既成住宅地は、現在の良好な住宅地の環境保全に努めます。

●新興住宅市街地ゾーン

- ・ J R 羽越線東側の薬師堂・二本木などでは、用途地域外での開発による宅地化が進行しているため、適切なコントロールにより計画的な整備を図ります。

●幹線道路沿道ゾーン

- ・ 幹線道路沿道の土地利用は、有効活用とともに都市全体としての望ましい将来都市像実現に向けた視点からの検討も行き、適正な立地誘導を図るとともに質の高い沿道景観の形成に努めます。

●農業ゾーン

- ・ 子吉川左岸の二本木などの農業ゾーンは、原則として今後も営農環境の維持・保全を図ります。

●自然とのふれあいゾーン

- ・地区南西部に広がる丘陵地は、市街地に近接した自然とのふれあいゾーンとして、引き続き本荘由利総合運動公園や総合福祉エリアの整備を推進し、計画的な整備・保全計画により、市民の憩い・レクリエーションの場としての活用を図ります。

②地区整備の重点目標

●道路ネットワークの整備

- ・市民意向調査からも幹線道路の整備および交通渋滞緩和と交通の円滑化について満足度が低く、かつ重要度が高い意向が示されています。
- ・本地区は、国道7号と本荘ICを結ぶ国道107号が地区を横切るため、将来的にさらに交通量が増大する可能性があります。
- ・本荘ICの供用開始に伴う交通量の変化等も調査した上で、将来交通量に対し円滑な交通処理ができるよう幹線道路の整備推進を図ります。整備にあたっては、住民意向調査で示された「歩道等のバリアフリー化」「歩道・通学路での安全性の確保」「ガードレール・道路照明等の交通安全施設の整備」に十分配慮し行うものとします。

●計画的な開発整備の推進と適切なコントロール

- ・用途地域に指定されている区域外での無秩序な宅地開発を防止し、質の高い居住環境と緑と調和した景観を保全・維持するため、適切な指導・誘導等により、計画的な開発整備を図ります。
- ・また、用途地域が準工業地域に指定され用途の混在化が見られる地区では、都市全体としての望ましい将来都市像実現に向けた視点からの検討も行い、適正な立地誘導を図るとともに質の高い沿道景観の形成に努めます。

●良好な住環境や街並みの保全

- ・都市として適度な密度をもつ住宅市街地への誘導や定住環境の整備を図り、本地区の持つ豊かな緑・自然資源と調和したゆとりある住環境と街並みの保全に努めます。また、住宅開発が進む新興住宅地では、地区計画等の活用などにより良質な住宅地の形成をめざします。

●丘陵地の保全とまちづくりへの活用

- ・地区南西部に広がる丘陵地は、豊かな自然が残されており、本荘公園～蟻山風致地区から本荘由利総合運動公園へと続く緑のゾーンは、市街地に近接した自然とのふれあいの場として利用されています。引き続き本荘由利総合運動公園や総合福祉エリアの整備を推進し、計画的な整備・保全計画により、市民の憩い・レクリエーションの場としての活用を図ります。

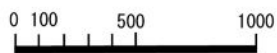
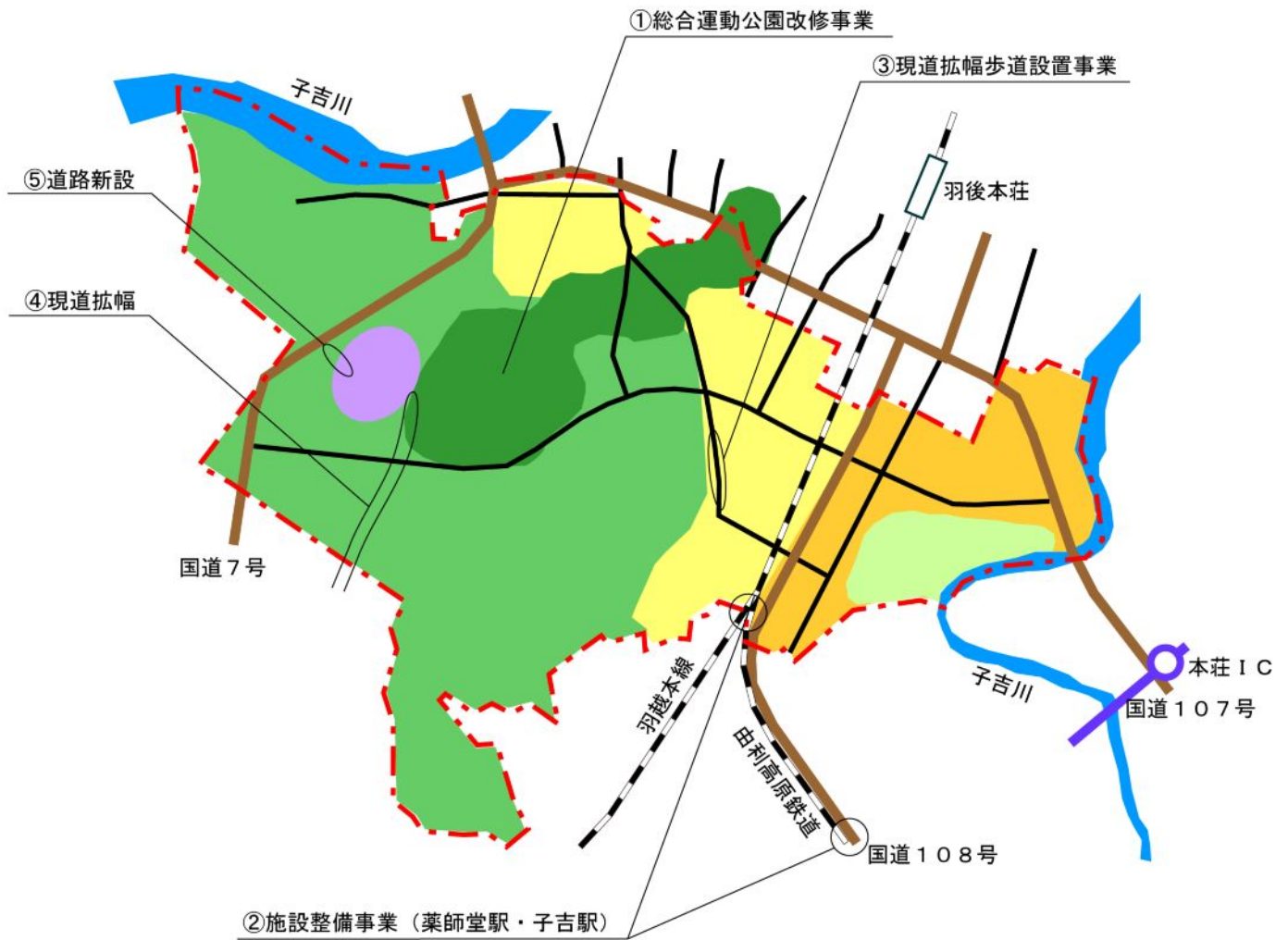
これら地区整備の目標の実現を図るため、総合発展計画の実施計画事業の内容を踏まえ、次の事業を行う方針です。

番号	事業名	事業の緊急性
①	本荘由利総合運動公園改修事業	高い
②	鳥海山麓線沿線施設整備事業(薬師堂駅、子吉駅)	高い
③	市道鶴沼薬師堂線Ⅲ期現道拡幅歩道設置事業	高い
④	市道西日本荘線 現道拡幅	普通
⑤	市道福祉エリア1号線 道路新設	普通

4) 整備構想

本荘市街地南部地区の整備構想図を以下に示します。

■本荘市街地南部地区 整備構想図



— 凡例 —

	地区境界		総合福祉ゾーン		自然とのふれあいゾーン
	既成住宅市街地ゾーン		公園・緑地ゾーン		主要幹線道路
	新興住宅市街地ゾーン		農地保全ゾーン		幹線道路

(4) 本荘市街地北部地区

1) 地区の現況と課題

①現況

1. 概況

- ・子吉川の北側でその支流である芋川の西に位置する本地区は、西が日本海に面し、北部は丘陵地となっており、南と東に川が流れる変化に富んだ地勢であり、日本海沿いに国道7号が、芋川沿いに国道105号の2つの国道が南北にとおっています。市街地は子吉川右岸沿い、国道7号沿い、芋川沿いに形成されており、その大部分は住居系ですが、国道7号沿道の準工業地域には商業・業務施設が立地し、工業地域に指定されている北部の三川地区は工業施設の集積も進んでいます。

2. 面積

- ・地区の可住地面積は702.7haで、そのうち住居系の用途地域が約49%、商業系が約1%、工業系が約14%となっています。その他の36%は、可住地ですが用途地域の指定がない農地や丘陵地となっています。

3. 地区内人口・人口密度

- ・平成17年の地区内人口は12,565人で、そのうち住居系の用途地域に約81%、商業系に約3%、工業系に約13%の人が居住しています。
- ・平成12から17年にかけて、人口は12,935人から12,565人へと370人(-3.7%)の減少となっています。
- ・平成17年の地区内人口密度は17.9人/haと低い値ですが、これは可住地面積で除しているためで、用途地域別に見ると、住居系が29.5人/ha、商業系が52.2人/ha、工業系が16.6人/haで南部地区と同水準となっています。

4. 市街化の動向

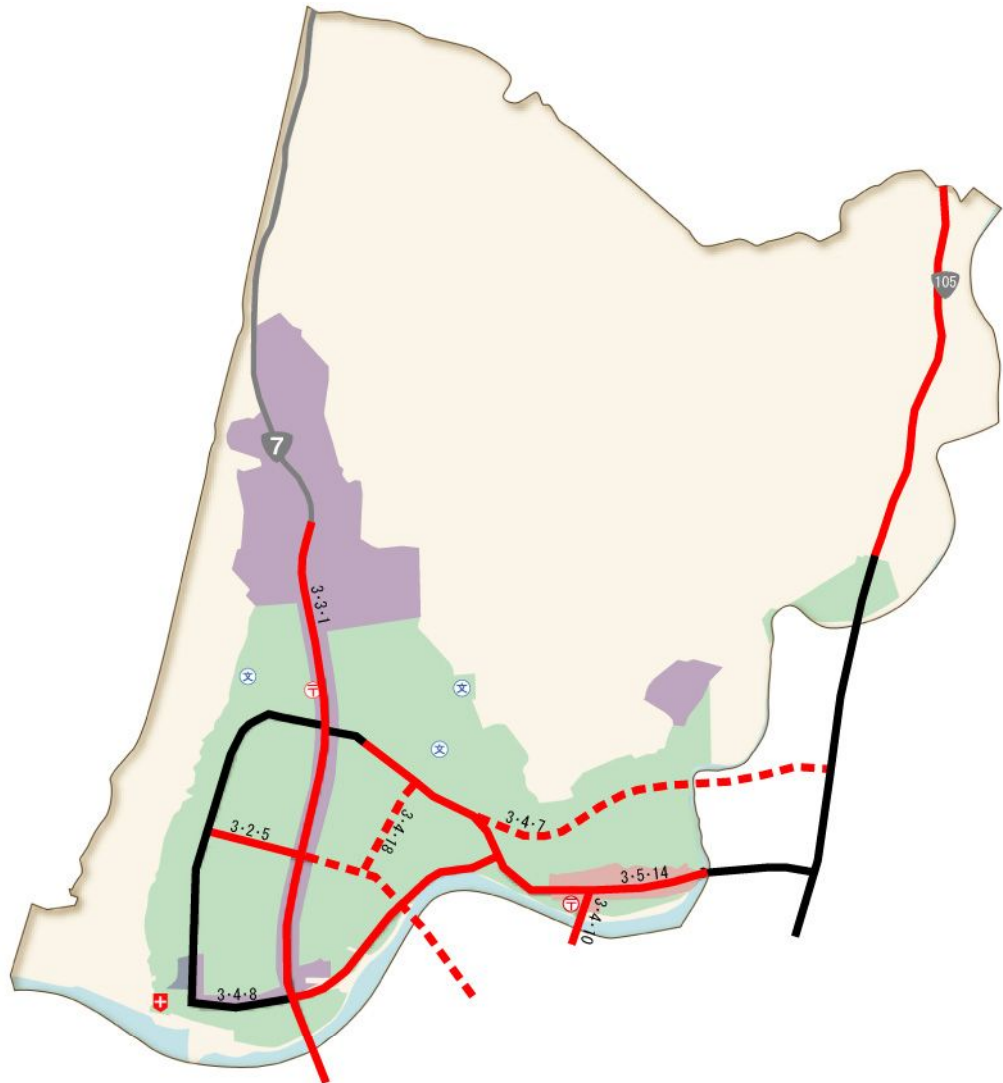
- ・過去5ヶ年(平成13~17)の新築建物の状況を下表に示します。新築建物数は地区全体で338件であり、8つの地区で最も多くなっていますが、これは期間中に公営住宅(松濤団地)の整備が行われたことが影響していると考えられます。

地区全体	338 件	—
住宅	259 件	76.6 %
商業	18 件	5.3 %
工業	27 件	8.0 %
平均建ぺい率	11.2 %	—
平均容積率	15.8 %	—

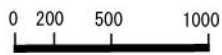
5. 地域資源

- ・丘陵地には新山公園や眺望の良いキャンプ場として有名な三望苑があり、海辺には本荘マリーナや本荘マリーナ海水浴場があります。
- ・祭りは、新山神社裸まいりがあり、登録有形文化財(建造物)として齋彌酒造店の建物等があります。

6. 地区の概要



施設凡例		用途地域	
●	役場	■	住居系
●	総合支所	■	商業系
〒	郵便局	■	工業系
校	学校		
⊗	警察署		
火	消防署		
+	病院		
○	官公庁		
都市計画道路			
—		整備済・事業中	
—		未整備（現道有）	
- - -		未整備（現道無）	



②地区の整備課題

1. 都市構造

- ・海岸線エリアの温暖な気候やマリナー、海水浴場、キャンプ場などの資源を活用した観光の活性化が求められています。
- ・夏期の観光入り込み数の更なる増加を図るだけでなく、本荘IC開通の効果を最大限活用し、市内観光資源のネットワーク化や観光モデルプランのPRなどにより、県外客数の増加、宿泊客比率の向上をめざす必要があります。
- ・国道7号沿いには、自動車利用型の大型ショッピングセンターやホームセンター等の立地進出が多く見られ、これらの商業施設と中心市街地の商店街・既存店等との役割分担、望ましいあり方について検討を行い、適切な誘導を図ることが求められています。

2. 土地利用

- ・住居系用途地域内の低密度化への対応が課題としてあげられます。過去5ヶ年(平成13~17)の新築建物の平均建ぺい率が11.2%、平均容積率が15.8%というのは都市における市街地として低密度すぎると言え、都市としての魅力やにぎわい・一体性を阻害する可能性も考えられます。適正な密度の住宅市街地への誘導や住環境づくりが求められます。
- ・本地区の石脇にあった国立療養所秋田病院の跡地が大規模な未利用空地として残されています。本市の望ましい将来像の実現に貢献できるよう有効な利活用方策の検討を行う必要があります。

3. 交通体系

- ・南北方向に2本の国道が通っていますが、東西方向の都市計画道路が未整備なため、効率的な道路ネットワークが形成されておらず、東西方向の交通軸の強化が課題です。

市民の声：本荘市街地北部地区

～市民意向調査より～

- 全体として、緑以外の項目は全て満足度が低く、その中でも重要度が高いのは「交通」「市街地整備」「都市環境」「土地利用」であるという意向が示されています。
- 個別の分野・施策別に特に満足度が低く、かつ重要度が高い項目として、以下のものが示されています。

- ・交通分野

除雪等の冬期間交通の確保、幹線道路の整備、鉄道駅舎の利便性向上

- ・産業分野

商店街の活性化

- ・市街地整備分野

商業拠点の形成、歩道等のバリアフリー化

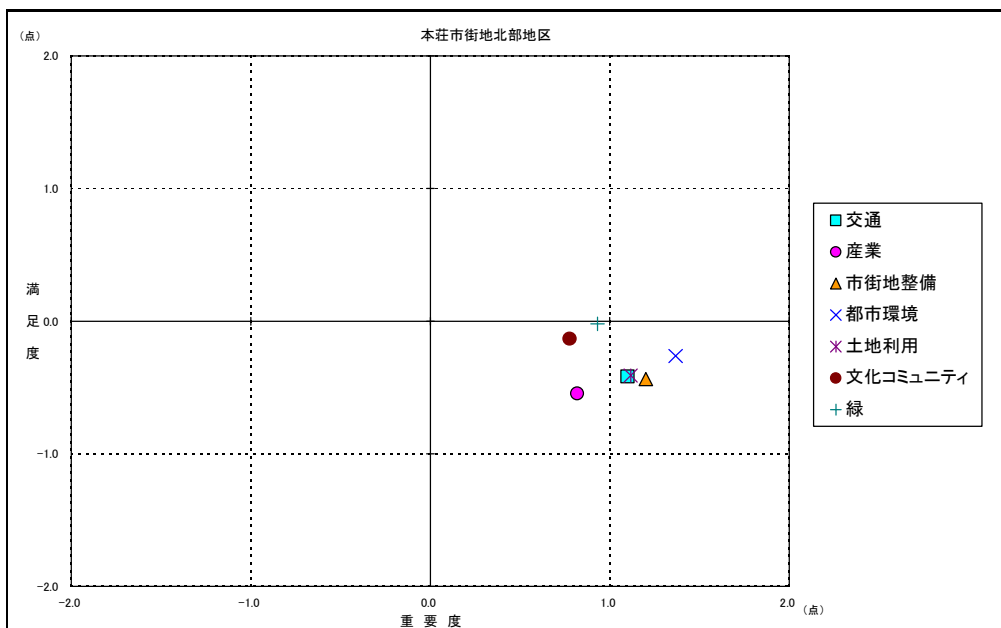
- ・都市環境分野

ガードレール・道路照明等の交通安全施設の整備、クリーンエネルギーの活用、歩道・通学路の安全性の確保、ごみ不法投棄対策

- ・土地利用分野

新規企業の誘致

由利本荘市の将来のまちづくりに関するアンケート
市民アンケート問6(地区番号4 本荘市街地北部地区) 分散図【総括】



※満足度 満足している:2点 やや満足している:1点 どちらとも言えない:0点 やや不満である:-1点 不満である:-2点として計上
※重要度 重要である:2点 やや重要である:1点 どちらとも言えない:0点 あまり重要ではない:-1点 重要でない:-2点として計上

2) 地区の目標とテーマ

①本荘市街地北部地区の目標

子吉川右岸の石脇地区は、藩政時代は亀田藩の物流拠点として栄え、子吉川を下って集められた米や木材などが石脇港から北前船に積まれ大坂や江戸に運ばれました。現在でも、古くからの特産品の店舗などが軒を連ね歴史の面影を残す街並みが形成されています。これら歴史と風格ある街並みの保全を図ります。

海岸エリアのマリーナ・海水浴場などの観光資源と石脇の歴史ある街並みや他の観光資源とのネットワーク化を図り、観光の活性化をめざします。

②テーマ

本荘市街地北部地区のテーマを以下のように設定します。

歴史と観光資源を活かした ときめきの創出

3) 地区の整備方針と整備構想

①地域の整備方針

本荘市街地北部地区は、以下の7つのゾーンで構成します。

●既成住宅地ゾーン

- ・子吉川沿いの既成市街地は、藩政時代の物流拠点としての面影を残す街並みをはじめとする歴史的資源や良好な居住環境を有しており、それらの保全に努めます。

●新興住宅地ゾーン

- ・松濤団地、新山団地などの新興住宅地は、計画的な整備を進め、良好な居住環境の整備を図ります。

●沿道活用ゾーン

- ・広域連携軸である国道7号沿道は、商業・業務系施設の立地誘導による有効活用を図ります。

●産業立地誘導ゾーン

- ・国道7号沿道の北部にあたる石脇・浜三川地区には、北部工業団地が形成されており、今後も地域の経済・雇用を担う工業拠点として周辺の居住環境との調和に配慮しながら、新規企業の立地誘導などの促進による機能の維持・強化を図ります。

●海辺の観光・リゾートゾーン

- ・本荘マリーナや海水浴場などがある海辺の観光ゾーンは、施設の充実を図り日帰り客・県内客中心の観光から、高速交通体系の整備を活用したより広域からの観光客を対象とした魅力ある観光・リゾート地の整備に努めます。

●緑の活用ゾーン

- ・市街地に近く、自然的環境を活かした新山公園、新山野墓園、東山風致地区などについては整備の推進と保全を図っていきます。

●自然環境保全ゾーン

- ・地区北部に広がる森林・丘陵ゾーンは、原則として将来も保全するものとしします。

②地区整備の重点目標**●観光・リゾート資源の充実とネットワーク化**

- ・海辺の本荘マリーナや海水浴場などの施設の充実を図るとともに子吉川沿いの藩政時代の物流拠点としての面影を残す街並み、その他の市内観光資源を結ぶなどのネットワーク化を推進し、広域高速交通時代を迎えた観光・リゾートのあり方の再構築を図ります。

●良好な住環境や街並みの保全

- ・藩政時代の面影を残す街並みや定住環境の維持・保全に努め、本地区の持つ豊かな緑・自然資源と調和したゆとりある住環境と街並みの保全に努めます。また、松濤団地、新山団地など住宅開発が進む新興住宅地では、地区計画等の活用などにより良質な住宅地の形成をめざします。

●道路ネットワークの整備と都市計画道路の見直し

- ・市民意向調査からも除雪等の冬期間の交通確保や幹線道路の整備など交通分野の満足度が低く、かつ重要度が高い意向が示されています。本地区は、国道7号と国道105号が南北に通っていますが、東西方向の都市計画道路が未整備なため効率的な道路ネットワークが形成されていません。地区内の都市計画道路は計画密度は高いものの、整備・改良率が低いため、我が国が人口減少時代、安定成長時代を迎えた社会的状況の下、優先的に整備すべき都市計画道路の選定などの見直しを図ります。

●丘陵地の保全とまちづくりへの活用

- ・地区北部に広がる丘陵地は、豊かな自然が残されており保全を図ります。丘陵地のうち、比較的市街地に近い場所については新山公園や新山野墓園などのようにまちづくりに活用するゾーンとして整備を進めます。

これら地区整備の目標の実現を図るため、総合発展計画の実施計画事業の内容を踏まえ、次の事業を行う方針です。

番号	事業名	事業の緊急性
①	松濤団地建替事業	普通
②	新山公園整備事業	普通
③	新山野墓園整備事業	普通
④	市道竜巻1号線現道拡幅歩道設置事業	普通

4) 整備構想

本荘市街地北部地区の整備構想図を以下に示します。

■本荘市街地北部地区 整備構想図



— 凡例 —

地区境界	産業立地誘導ゾーン	自然環境保全ゾーン
既存住宅市街地ゾーン	海辺の観光リゾートゾーン	主要幹線道路
新興住宅市街地ゾーン	緑の活用ゾーン	幹線道路
沿道活用ゾーン	川とのふれあいゾーン	

(4) 本荘市街地東部地区

1) 地区の現況と課題

①現況

1. 概況

- ・子吉川の東側で、日本海沿岸東北自動車道に沿い南北に細長い本地区は、その大半が農地および丘陵地となっており、住宅地等の都市的土地利用は羽越本線と芋川の間を南北にとおる国道 105 号沿いの一部のみです。しかし平成 19 年に日本海沿岸東北自動車道の本荘 I.C が供用開始となり、本地区は高速道路網における本市の玄関としての役割を担う地区となりました。また、秋田県立大学本荘キャンパスや本荘由利産学共同研究センターといった教育研究施設やし尿処理場、ごみ処理場などの主要な都市施設も立地しています。

2. 面積

- ・地区の可住地面積は 958.4ha で、そのうち住居系の用途地域が約 8%、工業系が約 2%となっています。その他の約 90%は、農地や丘陵地となっています。

3. 地区内人口・人口密度

- ・平成 17 年の地区内人口は 5,209 人で、そのうち住居系の用途地域に約 41%、工業系に約 5%の人が居住しており、その他の約 55%の人は用途地域外に居住しています。
- ・平成 12 から 17 年にかけて、用途地域内では人口増加傾向が見られ住居系で 10.3%増、工業系(国道 105 号沿道の準工エリア)で 16.9%増となっています。
- ・平成 17 年の地区内人口密度は 5.4 人/ha と非常に低い値ですが、これは可住地面積で除しているためで、用途地域別に見ると、住居系が 24.6 人/ha、工業系が 10.8 人/ha となっています。

4. 市街化の動向

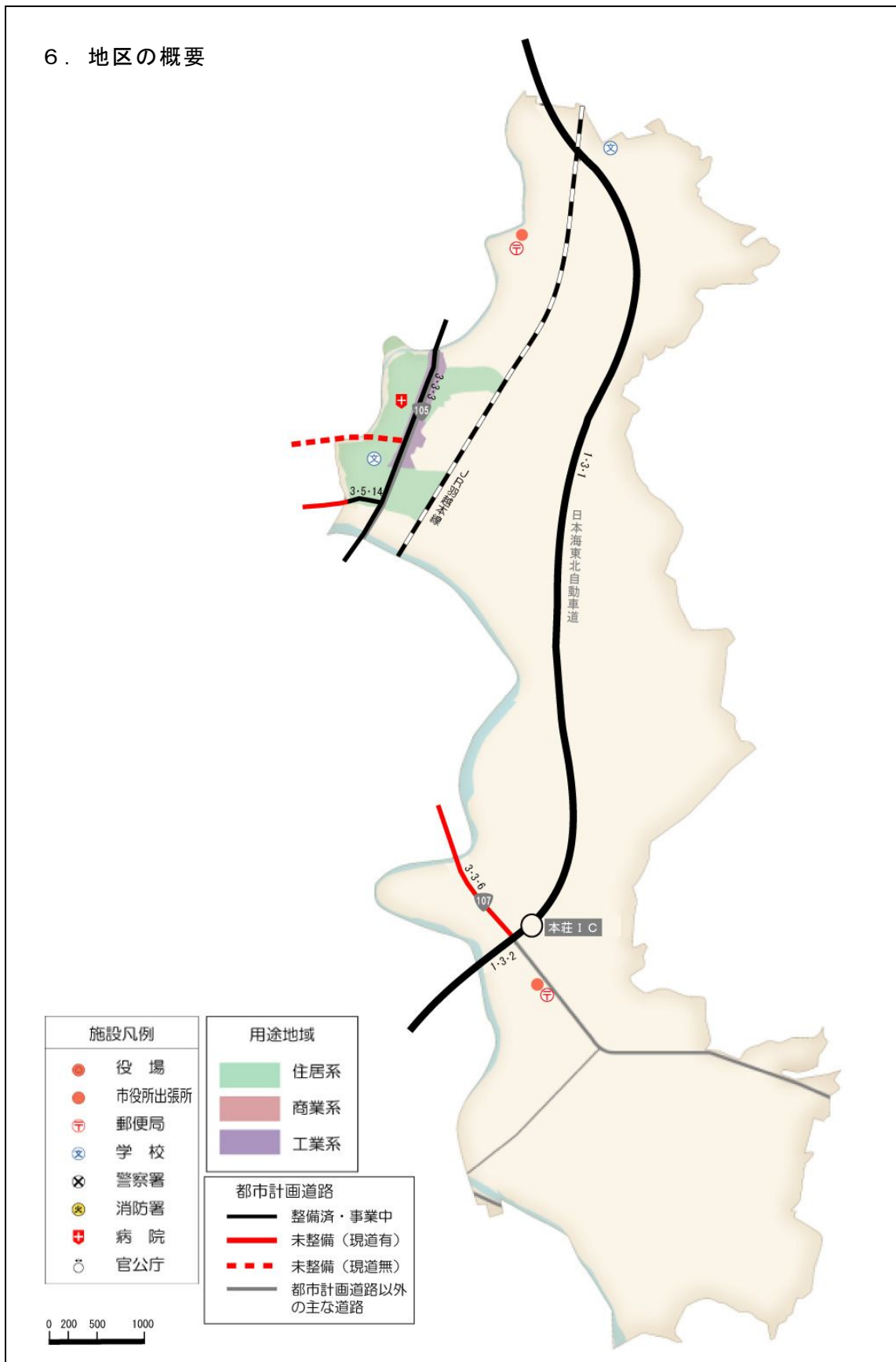
- ・過去 5 ヶ年(平成 13~17)の新築建物の状況を下表に示します。新築建物数は地区全体で 176 件であり、他地区と比べ低い水準ですが、平成 19 年の本荘 I.C 開通を踏まえアクセス道路沿道などの今後の建築動向に注意が必要です。

地区全体	176 件	—
住宅	127 件	72.2 %
商業	9 件	5.1 %
工業	21 件	11.9 %
平均建ぺい率	15.0 %	—
平均容積率	24.7 %	—

5. 地域資源

- ・特記すべき観光施設や文化財等はありません。

6. 地区の概要



②地区の整備課題

1. 都市構造

- ・従来、本地区は郊外の田園地区でしたが、日本海沿岸東北自動車道の本荘 I.C 供用開始によりその性格が大きく変化し、高速道路網における本市の玄関としての役割を担う地区となりました。本荘 I.C の整備を活用したまちづくりの推進とアクセス道路沿道などの計画的な建物の立地誘導およびコントロールが本地区の最大の課題です。

2. 土地利用

- ・本荘 I.C 周辺およびアクセス道路である国道 107 号沿道(地区内区間)は、用途地域の指定がありません。まちづくりへの有効活用と無秩序な開発を抑制する視点から、本荘 I.C 周辺および国道 107 号沿道地区の用途地域指定の検討を行う必要があります。
- ・本地区の中央部や北部に広がる優良農地は、全体構想において位置づけたように保全を図ります。農業は後継者や市場解放など多くの課題を抱えていますが、近年、食の安全や食糧自給率などから農業を見直す動きが高まっています。将来にわたり安定的に優良農地を保全する方法等についての検討が課題となります。

3. 交通体系

- ・本荘 I.C の供用開始にともないアクセス道路となる都市計画道路 3・3・6 本荘横手線(25)の早期整備が課題となります。

市民の声：本荘市街地東部地区

～市民意向調査より～

- 全体として、全ての項目に対して満足度が低く、その中でも特に重要度が高いのは「都市環境」であるという意向が示されています。
- 個別の分野・施策別に特に満足度が低く、かつ重要度が高い項目として、以下のものが示されています。

・交通分野

鉄道駅舎の利便性向上、幹線道路の整備、除雪等の冬期間交通の確保、交通渋滞緩和と交通の円滑化

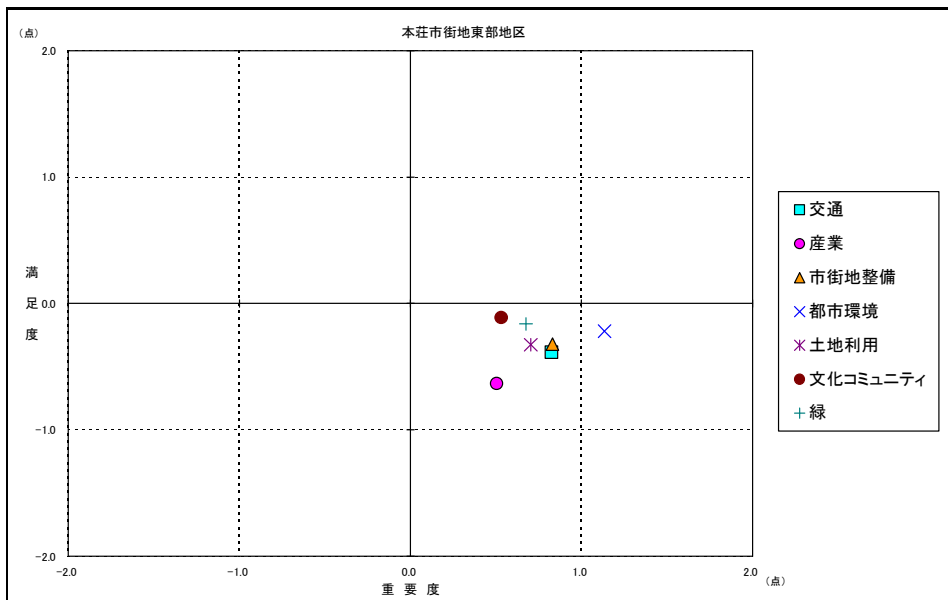
・都市環境分野

ガードレール・道路照明等の交通安全施設の整備、ごみ不法投棄対策、歩道・通学路での安全性の確保、

・土地利用分野

新規企業の誘致

由利本荘市の将来のまちづくりに関するアンケート
市民アンケート問6(地区番号5 本荘市街地東部地区) 分散図【総括】



※満足度 満足している:2点 やや満足している:1点 どちらとも言えない:0点 やや不満である:-1点 不満である:-2点として計上
※重要度 重要である:2点 やや重要である:1点 どちらとも言えない:0点 あまり重要ではない:-1点 重要でない:-2点として計上

2) 地区の目標とテーマ

①本荘市街地東部地区の目標

日本海沿岸自動車道の本荘 I.C 供用開始のインパクトを最大限活用し、本市の活性化および望ましい将来像の実現に向けた計画的な整備の推進を図ります。

I.C 周辺とアクセス道路沿道は、用途地域指定や地区計画など適切な規制・誘導手法導入の検討を行い計画的な整備・開発を進めます。

一方、その他の地区は、現在、用途地域が指定されている区域以外は市街化を抑制する方針とし、特に地区の中央部や北部の優良農地については保全エリアと位置づけ、将来にわたり保全します。

②テーマ

本荘市街地東部地区のテーマを以下のように設定します。

本荘 I.C のまちづくりへの活用と優良農地の保全

3) 地区の整備方針と整備構想

①地区の整備方針

本荘市街地東部地区は、以下の 8 つのゾーンで構成します。

●既成市街地ゾーン

- ・国道 105 号沿いの用途地域が指定されている既成市街地ゾーンは、良好な居住環境の保全と国道沿道の整序のとれた有効利用を図ります。

●I.C 周辺整備ゾーン

- ・本荘 I.C およびアクセス道路沿道は、高速道路ネットワークにおける本市の玄関としての役割を果たすための計画的な整備・開発を検討します。また、無秩序な開発を抑制するための規制・誘導方法の検討も行います。

●優良農地保全ゾーン

- ・地区の中央部および北部に広がる優良農地は、将来にわたり保全を図ります。

●学術研究ゾーン

- ・秋田県立大学本荘キャンパス、本荘由利産学共同研究センター周辺は、本市の学術研究の拠点として、機能の集積・施設の充実に努めます。

●産業立地誘導ゾーン

- ・南部の万願寺地区には、本荘工業団地が整備されており、本荘 I.C に近い立地条件のよさを活かして、新たな産業の集積を図ります。

●農・住環境整備ゾーン

- ・現在は主に農業的土地利用ですが、新たな市街地としての整備が望ましい地区は宅地としての整備を、農業の継続等が望ましい地区は集落環境・営農環境の整備に努めます。

●川とのふれあいゾーン

- ・市街地に近接し、芋川桜つつみ河川緑地として整備が進められている芋川沿いは、憩いと安らぎの空間として整備・維持増進を図ります。

●自然環境保全ゾーン

- ・地区東側に南北に連なる丘陵地の緑は、本荘市街地近郊における代表的な緑のゾーンであり、これらの自然環境は保全に努めます。

②地区整備の重点目標

●本荘 I.C 周辺の計画的な整備

- ・平成 19 年に供用開始となった日本海沿岸東北自動車道の本荘 I.C 周辺およびアクセス道路沿道は、今後、開発圧力が高まることが予想されます。高速道路ネットワークにおける本市の玄関となる I.C 周辺の無秩序な開発をコントロールし、本市の活性化、望ましい将来像の実現に寄与する計画的な整備を図ります。

●優良農地および丘陵地の緑の保全

- ・地区中央部および北部のまとまりのある優良農地は、将来にわたり保全するものとし、食の安全・食料自給率の向上などの面から、国内農業を見直す気運が高まっており、将来にわたり安定的に農業経営・農地の保全が可能なシステムのありかたについての検討が必要です。
- ・また、日本海沿岸自動車道の東側沿いに南北に連なる丘陵地の緑は、市街地近郊における代表的な緑のゾーンであり、今後とも保全を図ります。

●学術研究拠点の形成

- ・地区中央部に立地する秋田県立大学本荘キャンパス、本荘由利産学共同研究センター周辺は、大学を核とする本市の学術研究拠点として整備を推進します。施設の立地誘導による機能の集積や施設整備の充実を図ります。

これら地区整備の目標の実現を図るため、総合発展計画の実施計画事業の内容を踏まえ、次の事業を行う方針です。

番号	事業名	事業の緊急性
①	文化財史跡等調査保護事業(横山史跡公園整備)	高い
②	一般廃棄物最終処分場浸出水処理整備事業	高い
③	芋川桜つつみ河川緑地整備事業	普通
④	市道川口岩谷線 歩道設置	普通

(注)・明朝体で示すプロジェクトは、都市計画との直接的関係が低いもの。

4) 整備構想

本荘市街地東部地区の整備構想図を以下に示します。

■本荘市街地東部地区 整備構想図

